



iPhone 15シリーズもOK
USB Type-Cで接続!

スマホと繋いでイヤホンをいい音に プレーヤー技術を活かした 音質特化のポータブルDAC

iPhoneが選にUSB Type-C対応を果たし、いま注目を集めているアイテムが「ポータブルDAC」です。スマホとデジタル接続してイヤホンの音を高品位にする製品で、DACとヘッドホンアンプ機能を搭載するのが特長です。なかでも音質を徹底的に追求した「DC-Elite」は、完成度の高さからポータブルオーディオ大賞を受賞しました。



マニア垂涎の技術を搭載
実在感のある音は圧巻
VGP審判員 高橋 毅

USB Type-C採用のiPhone 15シリーズの登場もあり、さらなる盛り上がりも必至のカタグリーがスティック型の形状でヘッドホンアンプ機能も内蔵する「ポータブルDAC」。ハイレゾリューション配信をスマホと有線イヤホンで楽しむための必須アイテムであり、その際の音質を左右するキーアイテムでもあります。

そんな注目アイテムの中でも特に注目に値するのは、iBasso Audio「DC-Elite」です。オーディオ全般でまだ採用例の少ないローム社のフラッグシップ、しかもデスクトップクラスの電流出力DACチップ「BD34301EKV」を、ポータブル製品にいち早く搭載。それをUSBバ

スワーでクリーンに動作させる電源技術もさるがiBasso Audioです。ですが、それらを超えて驚きなポイントは独自開発の段階式アッテネーター。段階式アッテネーターとは、機械式ロータリースイッチで固定抵抗を切り替えることで音質調整する方式のアナログボリューム機構のこと。この方式での音質調整は一般的なアナログボリュームより高精度・高音質ですが、小型化は難しく、ポータブルオーディオでの採用例は皆無でした。しかしiBasso Audioは独自開発で超小型化に成功。本機にもそれが搭載されているわけです。しかも本機の音質調整はそのアナログアッテネーターでの24段階に加えてデジタルでの0.1/2.1/3dBの微調整も可能となっており、かなり細かい音質での細かい調整もこなしてくれます。もちろん最大出力も十分に確保されており、大型ヘッドホン等との組み合わせもOK。どんなイヤホン・ヘッドホンの組み合わせでも自分がいちばん心地よく聴ける音量に調整しやすく、そしてどんな音量でも本来の音質が損なわれない。当た

ポータブルDAC

iBasso Audio DC-Elite

YOPEN ※2023年12月15日発売予定

SPEC ●DAC: ROHM「BD34301EKV」●最大対応サンプリング周波数/量子化ビット数: 768kHz/32bit(PCM), 22.4MHz(DSD)
●出力レベル: 280mW@32Ω(1チャンネル), 160mW@32Ω(2チャンネル)
●最大入力端子: USB Type-C ●出力端子: 4.4mm、3.5mm ●外形寸法: 35W×14.5H×64Dmm ●質量: 60.5g ●付属品: USB Type-C to Type-Cケーブル、USB Type-C to Lightningケーブル、USB Type-C to A変換アダプター、専用スリーブケース

life style VGP 2024

ポータブル
オーディオ大賞

life style VGP 2024

金賞

ヘッドホンアンプ
(400mA@5V出力、5.2V@1.75A消費)

<接続端子>



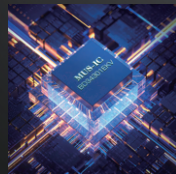
ヘッドホン出力は4.4mm(1チャンネル)と3.5mm(2チャンネル)を搭載。



ケーブルは蓋脱式で本体にはUSB Type-C入力を搭載。

ココがポイント!

iBassoの音質追求シリーズ「Max」と同じ思想で設計



カテゴリで稀有な
電流出力DAC

小型化が要求されるポータブルDACのジャンルにおいて、デスクトップクラスの電流出力DACを搭載するのは非常に稀有なことです。本機はローム社のハイエンドモデル「BD34301EKV」を採用。静寂性と情報量豊かなサウンドの実現を目指しています。



小型化を実現した
アナログボリューム

デジタルボリュームによるb1f落ちを原因としたサウンズ損失を低減することが重要となれば、Boschのアクティブ「DX320MAX」にも採用した24段階4セクションステップのアナログボリュームを搭載。小型化と高いS/Nを実現した独自技術です。



DAPと同等の
オーディオ回路

ポータブルDACはコンパクトであることも重要です。そのための設計は比較的シンプルになる場合が多いですが、本機はFPGAやFPGAのデュアルオペレーションを採用。プレーヤーと同一構造の回路設計を採用し、音質向上を図っています。



DAP開発で培った
FPGA技術を採用

ローム社のDACの前段にはFPGAを搭載しますが、これはプレーヤーの開発で培った独自技術を採用したものです。クロックソースにはNDK製FPGAのクロック高周波数を使い、デジタル歪みの低減を実現しています。

り前のごようですが、それをクリアできているオーディオは意外と少ないのです。本機はそこをハイレベルにクリアしています。なおアナログアッテネーターでの音量操作時には少しノイズが出るのですが、機械的な接点切替をする段階式アッテネーターではそれが正常動作での安心な音。むしろそれらもまた特別感を醸し出してくれる要素かもしれません。そしてこれに本体はボタン全開閉し出すです。

さて実際のサウンドですが、それはもう圧巻。楽器の音は実体的な厚みや力強さや響き、そこで鳴っているという確かな存在感を示してくれます。シンセベースや弦楽器による現代R&B的なサウンドの再現も文句なし。イヤホン・ヘッドホンの低再生能力をアンプの力で見事にコントロールし、繊美な響きのない、強固でクリアな低音を鳴らしてくれます。パワフルなのはもちろん、それが飽和感のあるパワフルさではなく、きゅんと詰まった密度感のあるパワフルさというのが嬉しいポイント。ボーカルの湿度感やピアノの音の艶やかさといった、音質

の手触りや表現のニュアンスの出し方も良好です。ですのでたとえば、前述の低音種の持ち味も声や音色のニュアンス表現も共に活かされる。ロバートグラスパー作品など、現代的なハイブリッドR&Bスタイルのバックトラックでの雰囲気あるボーカル曲などの聴き性は格別。では最新「Popはどうか」というOASOBI「アイドル」に相性も悪くありません。こちらでも深々渡る低音コントロールのおかげでポップ的リズムのキレや抜けがバシッと決まり、セビロのロク的なヘッドへのチャンネルの鮮やかさも際立ちます。つまり実はず「〇〇曲に合う」みたいなレベルではなく、どんな曲を聴いてもその曲のいいところをしっかりと再現しその魅力を引き出し出ている、そういうレベルの音というわけですね。

技術的な挑戦の面白味もあり、その効果を実際の音の聴聞からさして体感できる。オーディオマニアも音楽ファンも誰をも納得させるアイテムといえるでしょう。